

インタビュー

「専用線らしさ」の追求と、 「専用線に対する誤解の払拭」 に注力

ビジネスの生命線である基幹ネットワークを担い続けてきた専用線が、「旧くて新しいネットワークサービス」として、再び注目を集め始めている。100年超の歴史を誇る専用線の特徴は多くの方が認識している一方で、コストが高い、イーサインタフェースが使えない、特殊な業種・業態でしか使われていないなど、誤った認識を持たれている方々も非常に多いというのも事実である。他サービスと比較した「専用線の優位性」、さらにはTransport MPLS技術をベースにした新サービスへの取組みなど、常に進化し続ける専用線の最新動向について、ユビキタスサービス部の船橋哲也部長にお話をうかがった。

プレミアムとスタンダードの 二極化で「専用線らしさ」を追求

— NGNの商用サービス開始が脚光を浴びる一方で、“旧くて新しいネットワークサービス”として専用線が再び注目を集めていますが、最近の専用線の状況からお聞かせください。

船橋 専用線は、お陰様で100年を超える歴史を誇るネットワークサービスです。この間、常に最新技術を採用し、市場のニーズを先取りする形で進化を繰り返してまいりました。現在は数世代を経た新しい世代への進化ということで、専用線は大きな見直しの時期にきていると捉えています。具体的には、一時代を築いたものの、その使命は終わりつつあるサービスを整理し、これからの時代にマッチした専用線へと磨き込む、ちょうど境目にきているのではないかと思います。その意味では、ATM技術を使用した「ATMメガリンク」サービスは、その役割を終え

つつあり、これからの時代は、イーサをベースにした専用線が主流になると捉えています。NTTグループがNGNの商用サービスを開始する今年、専用線にとっても新しい時代に向けて舵を切る節目の年であり、新時代への船出の年であると位置づけています。

— 新しい専用線の時代をどのように捉えているのですか。

船橋 専用線の基本に立ち帰り専用線らしい使い方を追求したサービスと、専用線の特徴を活かしつつ価格競争力もあるスタンダードなサービスの二極化を推進する必要があるのではないかと考えています。一つは「専用線プレミアム」ということで、例えば金融機関様など専用線に対する拘りのあるお客様に対して、私どもも品質や保守面を含め「プレミアム」と称するに相応しい内容に徹底的に拘ったサービスを商品化してお届けする。もう一つは、スタンダードな専用線を、もう一度見直してい



NTTコミュニケーションズ(株)
ユビキタスサービス部長
船橋 哲也氏

ただければと考えています。多くの方が専用線は高いというイメージをお持ちです。こういった誤った認識を払拭し、通信断になりにくく価格的にも競争力のあるサービスであることを訴求していくことが今年の重点テーマです。

— 専用線プレミアムのサービスとして、例えばどのようなメニューをお考えですか。

船橋 一つには充実したSLA、さらに即時故障通知、遅延の少ないネットワーク、迂回ルートの二重化による絶対に切れないことの追求など、現在当社が持てる限りの知恵とリソースを傾注して、メニューの強化を図っていきたいと考えています。

「専用線に対する誤解の払拭」 に注力

— 確たる証拠がないままイメージ的に誤った認識を持っている人が非常に多い…。

船橋 マネージメント層と担当者の

いずれの層でもイメージからくる誤った認識が多く、コストや使いやすさに加え、帯域に関する誤解も多いですね。現在は、多様なニーズにお応えできるよう、狭帯域から広帯域まで自由に選択していただけるように豊富なメニューをラインナップしています。画像や動画など映像系コンテンツの流通を考えると、再び専用線の時代に回帰するのではないかと思います。いずれにしましても我々自身、専用線に対する誤解を払拭するために、もっともっと専用線を知っていただく努力をする必要があると考えています。具体的な施策としては、やはりお客様に使っていただけるようなシーンを増やしていくことが重要だと思います。こんなケースでは専用線が非常にお役に立てるといったように、もっともっと専用線の活用法をアピールする。それから、ターゲットプライスに対して、我々がどのような提案ができるかの情報を積極的にお客様に提供していきたいと考えています。その意味では、プレミアムとスタンダードの二つに分けてメニュー強化を図る中で、スタンダードにつきましては価格的にも十分競争力のある形でお客様にプレゼンテーションさせていただきたいと思っています。

——イーサインタフェースを持つ新世代専用線が注目を集めていますが、利用の伸び率はいかがですか。

船橋 やはり現在は、イーサタイプの専用線（イーサ専用線）が主流で、従来のATMに代わり、利用が堅調に増加し続けています（図1参照）。

ATM専用線だけでなく、VPN等網型ネットワークからの移行も増大しています。現在、最高速度40Gbpsのメニューを提供していますが、100Gbpsの提供も視野に入れており、業界内での最高サービスを堅持していきたいと思っています。

新しいメニューの追加や、充実したオペレーションの提供を加速

——NGNと専用線の関係についてお聞かせください。

船橋 NGNのバックボーンは専用線の技術が大いに使われています。NTTグループでは、“次世代サービス共創フォーラム”と称するオープンなビジネスフォーラムを中心に、多彩な分野におけるサービス開発・事業化に取り組んでいます。NGNを活用した企業アプリケーションという観点では、拠点間は専用線を活用し、アクセス領域に広帯域で高品質・高信頼・高いセキュリティのNGNを活用するといった形で、NGNと専用線のそれぞれの特徴を最大限に活かしたネットワークが実現できると思います。

——新時代に相応しいサービスメニューとして、どのようなサービスをお考えですか。

船橋 私どもは“NGT（Next Generation Transport）技術”と称

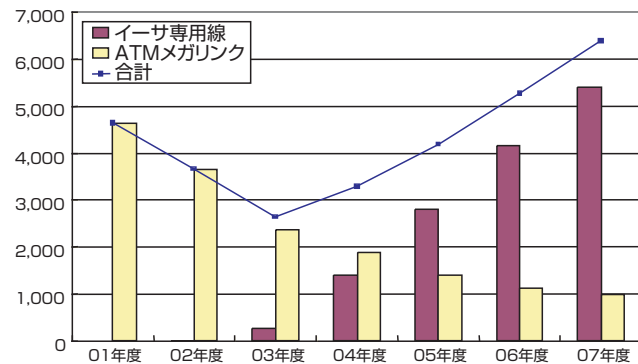


図1 増加し続けるイーサ専用線

している Transport MPLS という新技術をベースにした新しいサービスメニューを検討しています。Transport MPLS（Transport - Multi Protocol Label Switching）は、2006年11月、ITU-Tにより勧告化されたコネクションオリエンテッドなパケットベースの伝送レイヤ技術です。上位プロトコルをIPに限定しないPoint-to-Pointのパスを構築できるという特徴に加え、従来の伝送技術（SDH、ATM等）と同様のOAM（保守運用）機能を備えています。このような純技術的な新技術を含め、しっかりとしたオペレーションを組み立てて商品化し、充実したオペレーションをセットにした形でのサービス提供を加速していきたいと考えています。充実したオペレーションをお客様に提供することを通して、専用線の良さを再度理解していただくような取組みに注力していきたいと考えています。

——本日は有り難うございました。

（聞き手・構成：編集長 河西義人）